自由南アフリカの声
Voice of Free South Africa

2001年10月
No.27

発行　／　アジア・アフリカと共に歩む会
Published by Together with Africa and Asia Association (TAAA)

2001年９月の報告

- 4月埼玉県松伏町より移動図書館車引取り
- 5月アメリカンスクールインジャパンより本引取り
- 河合塾の呼びかけで270校から本収集協力
- 8月MEIとELETへ図書活動費を送金
- 河合塾より19767冊を南アへ出荷
- 9月 TAAA 現地連絡員平林さん南アへ戻る

目次

初参加顛末記……2
南アフリカの歴史②……4
寄付金について……5
新聞記事より……6
活動報告／平成１２年度会計報告……7
近況／寄付をくださった方々……8

届いた本を手に取るトコエンの関係者たち

初参加顛末記

～企業としてボランティアに参加～

河合塾　宮崎敦子

このたび、企業として初めて貴会のボランティアに参加させて頂きました。ＴＡＡＡの皆様に大変なご苦労、ご迷惑をおかけしながら、何とか南アフリカへ向けて英語の教科書・本類を送ることが出来ましたので、お礼とご報告をさせていただきます。

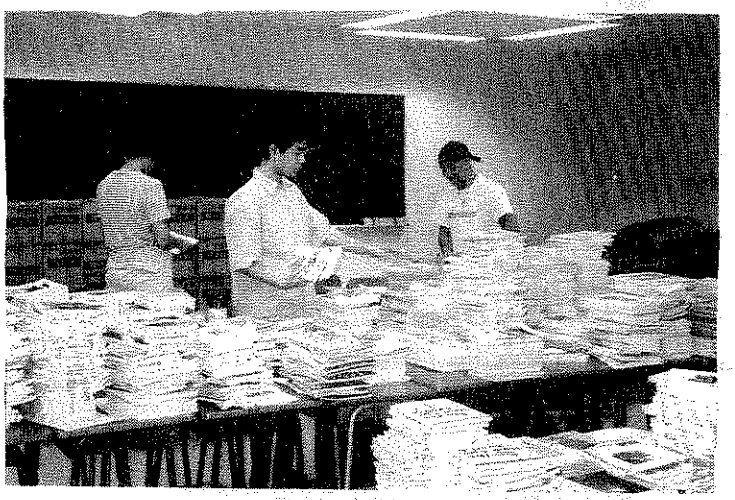
（１）集まりました、３万冊

集まった本類は約３万冊。段ボール箱にして７００箱ほどになります。これらは、全国の高等学校２７０校と河合塾各校舎（仙台から九州まで）から我々の部署（名古屋）へ届けられました。高等学校への協力依頼は、全国各拠点にある営業部を通じて約２０００校ほどにお知らせしており、そのうち、２７０校から協力を承諾する返事が来たわけです。

（２）広報

生徒への呼びかけ用に、ということでポスターを１種類作成し、各高校と河合塾各校舎へ届けることにしました。その際には、ＴＡＡＡからお借りした南アフリカの写真が大活躍しました。結構目を引いたようで、校舎でポスターを見た高校生からの問い合わせ電話が数件かかってきました。

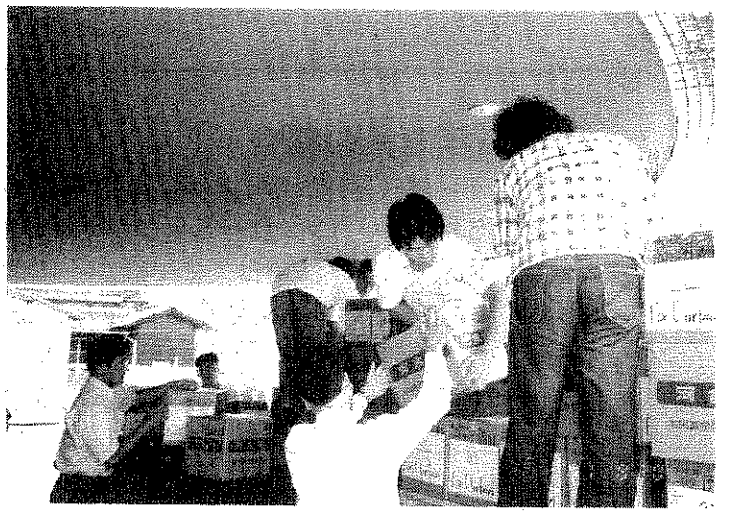
また、河合塾のホームページにもボランティアの件を載せていたため、わずかですが遠方からの個人参加もありました。



届いた教科書を種類別に分けているところ。職員、アルバイトで携わりました。向こうにみえるダンボールは、梱包済みのものです。

（３）作業

梱包作業は８月６～１６日の土日を除く９日間で実施しました。作業には大学生のアルバイト１日４人と、業務の空き時間に職員が２～３名ずつ入って進めていきました。でき上がった送付用の梱包済み段ボール箱は、全部で２２０箱ほど。このうち８７箱がダーバンに、９０箱がケープタウンに受け入れてもらえることになりました。



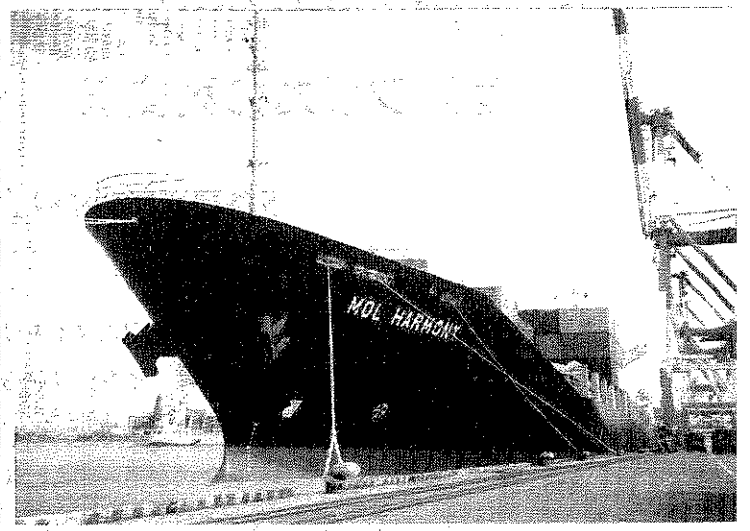
河合塾桜山校（名古屋）から名古屋港へ向かうトラックに荷物を積み込んでいる様子。写っているのは職員とアルバイト。

（４）港で本を見送る

有り難いことに名古屋港を経由して南アフリカへ向かう船を手配して頂き、港へ１７７箱を移動することに。しかし、このとき、作業所がある建物の３階から１階の玄関口まで狭い廊下を通って移動するのがちょっとした難所でした。集荷に際しては４トントラック１台に運転手さん１人しか来られないということでしたので、番号順に並べた箱を１つの漏れもないように玄関口まで運び、また番号順に並べるということで、手間がかかりました。事前にこのようなことがあるだろうと野田さんから聞いていなければ、本当に困っただろうと思います。トラックに荷物を積み上げるのもまた、大変な作業でした。これら一連の作業は、我が部署の力持ち(?)の職員がほとんど総勢でかかりました。こうして８月２０日に名古屋港へ搬入し、２４日にコンテナへ積み込み、２７日、いよいよ名古屋港を出港しました。手塩に育てた我が子を見送る母親の心境に浸りながら船を見送ったのでした。

このときの様子はビデオに収めましたので、折を見てＴＡＡＡの皆様にもお目にかけたいと思います。

名古屋港の倉庫からコンテナへ荷物を積み込んでいる様子です。



この船に、南ア行きコンテナが積まれています。香港あたりで更に大きな船に積み変えられ、インド洋を渡って南アへ向かうとのこと。

（5）寝ても醒めても本、本、本！

会報№２５('01 年１月発行)に寄稿した河合塾講師　牧野氏から貴会のことを伺ったとき、「何と素晴らしい活動でしょう！是非河合塾も協力しましょう。」と勢いづいて、担当を名乗り出たのは良かったのです。が、いざ運営に取りかかろうとすると、いくつもの壁にぶつかりました。

使用しなくなった机と椅子をカンボジアに送る、というボランティアは以前河合塾でもやったことがありますが、外部の高校に呼びかけるというのは初めてだったので、企業内各部門に了解を得るのも、なかなかスムーズには行きませんでした。このことに時間をさいてしまい、ＴＡＡＡの皆様にはご迷惑をおかけしてしまいました。

けれども、やることが決定し、高校や各校舎へ向けて案内書を出した後は、「反応があるだろうか。」という心配をよそに、次々と高校から賛同の声を頂きました。その後、各高校から毎日段ボール箱の山が届くようになった頃、自分の手に負えないのでは…、という不安がよぎりました。学生アルバイトを雇ったことは雇ったのですが、作業をしてもしても終わらず、ゴールが見えない日々が続きました。しかし、引っ込みはつきません。野田さんの様々な励ましとアドバイスのお言葉、それからアルバイト君たちをはじめ協力してくれた各職員の頑張りで、なんと、予定よりも早く作業を終了することができました。

作業が始まって３日目に野田さん、浅見さんがわざわざ名古屋まで足を運んでくださったこと、中日新聞の取材とラジオ番組出演で作業所が盛り上がったことなど、ところどころにエッセンスもあり、楽しい経験でした、とバイト君たちは言い残していきました。

（6）喜び

作業は体力と根気のいるものでしたが、送られてきた箱を開くと、寄付してくれた人たちの様々な思いが伝わってきました。なかには、「思い出の詰まった中学時代の本なので、必ず役立てて下さい。」というメッセージがついていたり、大量の教科書をきちんと種類別に分けて「○○は○冊」という内訳表を入れてくださったり。生徒が主体になって集めた高校のものも多かったです。

ほかに、新品のノート、鉛筆、バインダーなどを同梱してくれたところもありました。また、１冊の本の間に英語で書いた手紙を挟んでいるのもありました。そこには、「私は医者を目指して猛勉強中です。いつか南アフリカにも行きたい。私の住所を書いておきますので、この本を受け取ったら手紙をください。」と書かれていました。

「南アフリカに教科書を送りたいのでご協力ください」と呼びかけただけなのに、返ってきたのは多くの人々の「思いやり」でした。その思いを感じるにつけ、何だか高校生や浪人生たちに教えられることが多かったように思います。

（7）お礼

野田さんをはじめ、ＴＡＡＡの皆様、本当に有り難うございました。まだ残ってる本がありますし、高校からは今後も続けて欲しいという要望も出ています。今回の経験を無駄にせず、我々の企業の中にボランティアを浸透させていくことを私の役割として続けていきたいと思います。これからもおつきあいの程、よろしくお願いします。

また、紙面をお借りして、ご多忙の中ご協力くださった各高校の先生方に厚くお礼申し上げたいと思います。

＜学んでみよう、南アのこと＞

南アフリカの歴史②

下谷房道（高校教諭）

1910年、南アフリカ連邦が成立。ボーア人はイギリスに産業革命の権益を認めることを条件にイギリスから行政権を譲り受けた。図式的に言えば経済界を握ったのがイギリス系、政治の実権を掌握したのがボーア人となる。ボーア人は一方では圧倒的なイギリスの経済力に、一方では圧倒的多数の黒人の勢力におびやかされ、自分達はアフリカーナーであるという自覚を高めていく。同時にアパルトヘイト政策が姿を現し、第二次世界大戦後の1948年の国民党政権の誕生につながっていく。（この間、ナチズムへの共感という興味深い傾向も見られた。）これ以降、国民党が「雑婚禁止法」「人口登録法」などのアパルトヘイト政策の法制化を進めていったことは知られているとおりである。トイレなどが人種ごとに分離されたが、黒人に参政権を認めないことが本質的な問題だった。

1910年成立のイギリス連邦の実体が非白人を無視したものであることに衝撃を受けたことをもとに、1925年アフリカ民族会議（ANC）が誕生する。ANCは当初、ガンディーの影響とみられる不服従闘争を展開していたが、ある事件をきっかけに武装闘争に転じた。1960年のシャープビル虐殺事件である。白人が一方的に突然射撃しておきたこの事件の衝撃は大きく、この国は国際的に孤立していき、イギリス連邦から追われる形で1961年、南アフリカ共和国が成立する。日本はこの時期の南アと外交を再開して「名誉白人」の称号を受けた。マンデラの逮捕は1962年である。

反アパルトヘイト運動の中で注目すべきは、スティーブ・ビコの黒人意識運動であろう。白人に対する劣等感から開放され自分自身に対して誇りを持つように説いたこの運動は、青年や子供たちを中心に広がった。映画「遠い夜明け」は彼の主張を世界に広め、日本でも関心を持つ人が急速に増えた。1976年、アフリカーンス（オランダ語などを元ととするボーア人たちの使用する言語）の学校への導入に抗議したデモ行進に対して白人が発砲した。ソウェト蜂起と呼ばれる事件である。黒人意識運動の洗礼を受けた世代であった。

国際世論はバンツースタン政策や三院制議会などアパルトヘイト政策を続ける南アフリカ共和国に経済制裁を課するようになっていき、南アの経済が行き詰まっていく。経済を握るイギリス系の財界が悲鳴をあげ、国民党政府の頭越しにANCと交渉を始めるようになっていった。レアメタルや黒人の安い労働力で利益を上げていた日本がアパルトヘイト反対に積極的でなかったことは残念だ。これは日本自身の問題なのだと思う。1990年にANCが合法化されマンデラが27年ぶりに釈放、1994年には初めての全人種参加の総選挙が実施され、マンデラが大統領に選出された。

しかし、何も変わってはいない、という声が聞こえてくる。復興開発計画（RDP）はANCの選挙公約だが進んでいない。アパルトヘイト政策の負の遺産は大きい。「子供だけにはちゃんとした教育を与えて、将来に希望を持たせたい。」進まぬ黒人雇用、住宅政策の中で、人々は教育に力を入れている。教育は息の長い取り組みだが、この国に最も求められるものだと改めて思う。また、アフリカには豊かな文化があるというが、我々がそれを受け止め、交流していかない限り、援助も不十分なものになるだろう。（終）

シャープビル襲撃の後，地面に横たわる死者と瀕死の重傷者たち

この原稿は、さる3月4日に開催された「南アの歴史とフリートーキングの会」で「南アフリカの歴史を振り返って」と題して下谷さんにお話いただいた内容の要約です。わかり易いと大変好評でしたので、改めて会報用に書き直してもらいました。

▼ELET からの手紙

代表のマーヴィン・オグレと ELET 職員は、大久保ふみ様に感謝の気持ちを伝えたいと思います。

貴女の ELET に対する寛大さやご親切、本当にどうもありがとうございます。貴女の今回のご寄付は、アフリカの子供達の生活に変化をもたらします。貴女からのご支援を得た ELET は、すべての南アフリカ人がもっとよい教育が受けられるように努力してまいりたいと思います。私たちは貴女のような方が友達であることを誇りに思っています。これからもどうぞ良いお仕事を続けてください。私たちはプロジェクトに一生懸命取り組むことをお約束いたします。ありがとうございました。

ELET 代表および職員一同

（訳：久我祐子）

▼MEI からの手紙

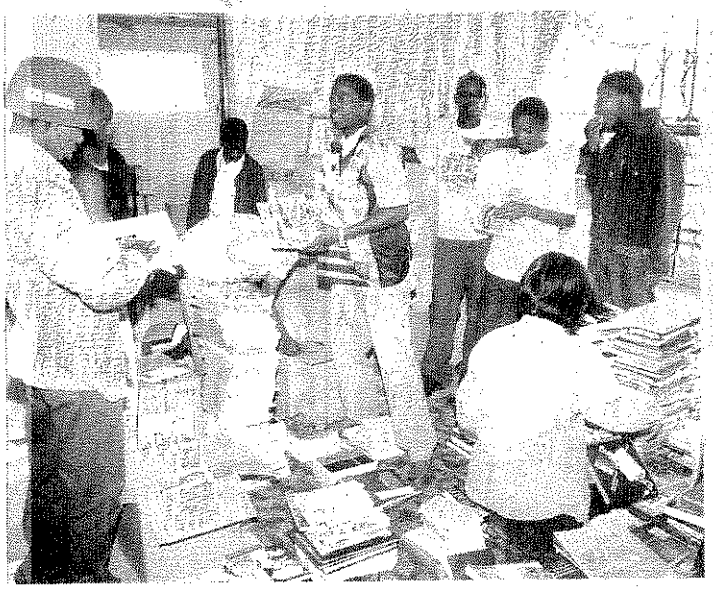
MEI とデヴィトンとエトワトワの子供達に代わり、移動図書館車プロジェクトへの貴女の寛大なご寄付に対して感謝を申し上げます。

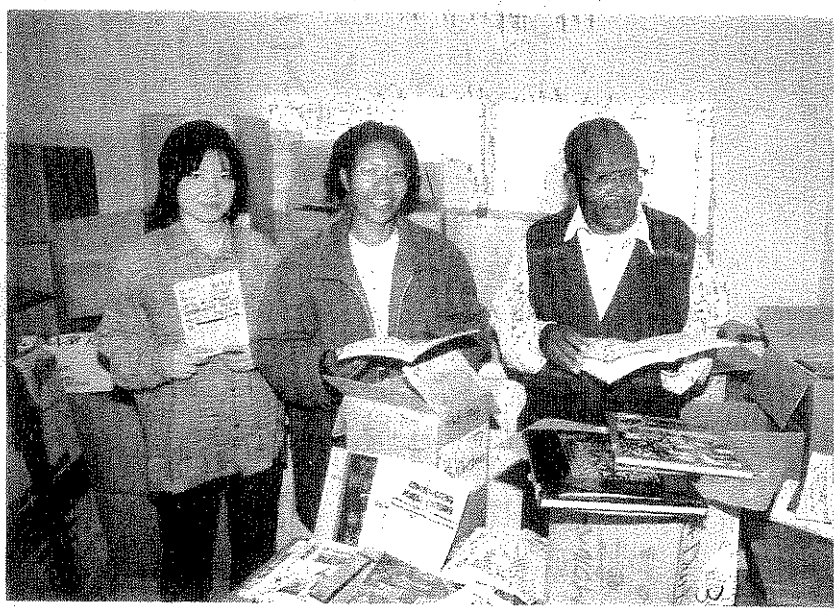
南アは新政府を迎えて７年になり、その間多くのことが変わりました。しかし、変わらないことも数多くあります。そのひとつは、デヴィトンとエトワトワの学校に図書館がないことです。南アの発展には、教育はきわめて大切な要素です。学ぶ教材や本がなければ、人々を向上させるのは不可能です。20 校(生徒数約 200 人)の学校に本を提供する移動図書館車の仕事はとても重要です。南アは貧困、エイズ、失業など多くの問題を抱えており、組織が基金を得るのは難しく、貴女のご寄付には大変感謝しております。このお金は今年度の経費を賄うのに役立てます。移動図書館車は、遠くにいる助けを必要とする人たちに関心を寄せる貴女や TAAA のメンバーの気持ちの証です。

MEI 会長　デイブ・ベントレー

Photo Letter

BLL の藤田さんが写真を送ってくれました。（表紙も）





←長くTAAAの活動を支援して下さっている舞鶴市の井関純さんが手紙と記事を送って下さいました。

「このたび地元新聞に高校生の協力者の活動が掲載されました。この高校は妻の母校で、足元のそうした動きを全く知らなかったので、思いがけない贈り物を得た感じです。」

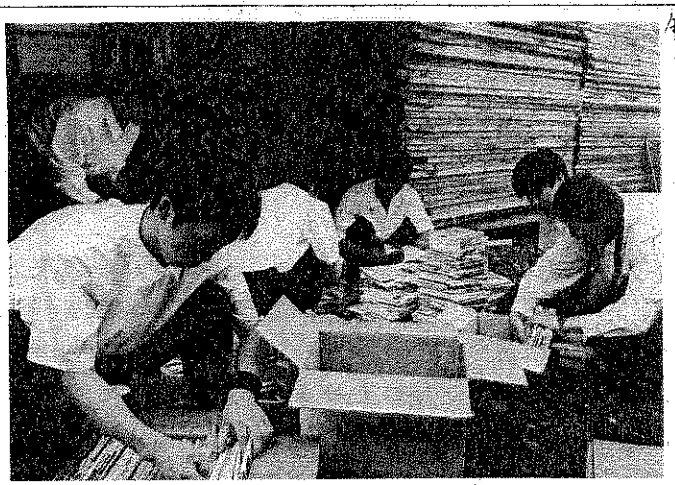
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

新聞記事より　▼舞鶴市民新聞 2001年9月6日

舞鶴市民新聞 2001.9.6

英語で書かれた本を南アへ

東高生徒会 河合塾通し 識字教育に役立てて



集まった本の仕分け作業をする生徒たち

泉源寺の東舞鶴高校生徒会（岡井一樹会長）は、南アフリカ共和国の識字教育に役立ててもらおうと、生徒らに呼びかけて英語の本を集め、予備校の河合塾メディア教育事業本部（名古屋市）を通して現地へ送ることにした。

南アの識字教育を支援する河合塾が同高にその取り組みを話したところ、同高でも協力することにした。先月、学校内に使われずに保管されていた英語の教科書や問題集を集めた。さらに同生徒会が中心になって、生徒らにも英語が書かれた本の提供を呼びかけた。

寄せられた本はほとんどが中学時代の英語の教科書。学校にあった本も合わせるとダンボール箱二十箱になった。生徒会やボランティアクラブの部員らがそれらの本を仕分けして、ダンボール箱に詰める作業をした。来週、同事業本部へ送る。

▼中日新聞 2001年8月9日

2001.8.9 中日新聞

全国から"善意"3万5000冊

教材不足の南アへ

河合塾が呼びかけ

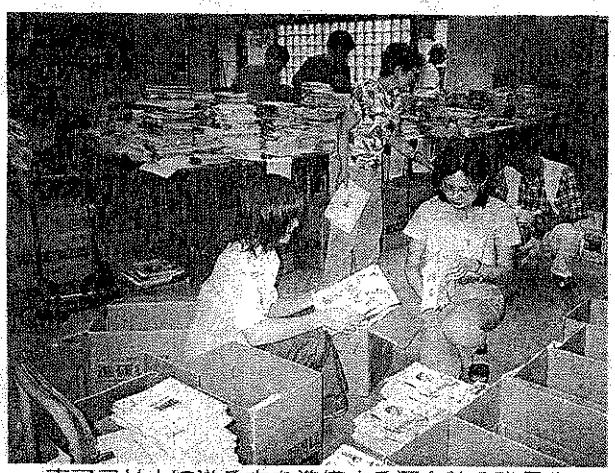
教材不足に悩む南アフリカ共和国に送るため、大手予備校の河合塾（本部・千種区）が全国の高校や生徒に英語の教科書の提供を呼びかけたところ、このほど約三万五千冊が集まり、八月下旬の発送に向けて同予備校の職員やボランティアがこん包作業に追われている。

この呼びかけは、同予備校講師の一人が、南アに中学英語の教科書や移動図書館用バスを送っている非政府組織（NGO）「アジア・アフリカと共に歩む会」（TAAA）＝さいたま市＝の活動を知ったのがきっかけ。予備校に図り、全体として協力することに。

南アでは、アパルトヘイト撤廃後も、人種差別や地域格差に苦しむ黒人が多い。一九九二年に発足したTAAAは、黒人の子どもたちや学校に行けなかった大人の識字教育のため活動を続けている。

今月下旬発送

こん包に大忙し



南アフリカに送る本を準備する河合塾の職員やTAAAのメンバー＝瑞穂区の河合塾桜山校で

河合塾では六月上旬から寄贈を呼びかけ。沖縄から青森県まで約二百七十高校や予備校生らから三万五千冊が集まった。中には英語の百科事典や私立学校で余ったらしい真新しい教科書も。八日、瑞穂区駒場町の河合塾桜山校のこん包作業現場を訪れたTAAAの野田千香子代表は「同じ教科書が何十冊もそろっているので、授業に有効に使ってもらえると思います」と喜んでいた。

◆主な活動(2001年4月16日～9月9日)

4／16　会報26号編集会議　山田玲子　野田千香子
　　住所シール準備　小宮山明子
4／20　Tシャツ3680枚をボツワナへ出荷
4／25　会議　久我祐子　野田
4／27　松伏町へ車引取り　浅見克則
　　南ア大使館「フリーダムデイ」祝賀会　野田　平林薫
5／2～6　会報26号編集　山田
5／11　ボツワナへ送金5万円（ダーバンからの陸送費）
5／20　アメリカ大使館へ本引取り　浅見
5／25　本引取り　増山久一郎
6／3　作業と会議　浅見　下谷房道　安部弥生　佐藤朗
　　野田　村泉巨竹
6／5　26号発送作業　井出利栄
6／9　会議　平林　千葉愁子　久我　野田　浅見
6／13　アメリカンスクールインジャパンへ本引取り　村泉
6／13　河合塾より連絡　270の高校が協力要請に応答
6／19　クリスチャンアカデミイインターナショナルスクールへ本引取り　浅見
7／1　作業　浅見　野田　安部　村泉　下谷　千葉
7／9　よろずアフリカプロジェクトにて会議　平林　浅見
ラング・クレイヒル
7／17　南アMEIへ3209冊出荷
7／24　南ア大使館にて南アレインボースターズのコーラス
　　野田　平林
7／28　河合塾より宮崎敦子さん小向さん来訪、ミーティング
　　野田　浅見
7／31　南ア大使館主催南ア教員来日歓迎会　平林　野田
8／5　運営委員会　浅見　野田　山田　下谷　千葉　安部
8／8　名古屋河合塾での本梱包作業と会議　野田　宮崎
　　小向　浅見
8／9　中日新聞にTAAAと河合塾の協力による本収集が報道される
8／15　MEIとELETへそれぞれ50万円ずつ送金する
8／17　会議　野田　浅見
8／25　会議　野田　下谷　平林
8／27　河合塾よりELETとエルギンコミュニティカレッジへ本19767冊名古屋港から出港
8／31～9／1　長野県へ本引取り
9／9　作業と会議　山田　浅見　野田
9／9　南ア連絡員・平林薫、南アへ出発

南ア直輸入健康茶ルイボスティ

ルイボスティは南アフリカ共和国のケープタウン近くの山脈一帯にしか栽培されていない健康茶です。
売り上げの一部はTAAAの活動費になります。

＊ ルイボスティ(1箱80パック入り)
　5箱……1万円(税・送料込)
4箱以下…1箱2,000円(税込・送料500円)
Faxかハガキでお申し込みください。
お名前、住所、電話、箱数をお知らせください。

平成12年度　「アジア・アフリカと共に歩む会」会計報告

（平成12年4月～平成13年3月）

収入		支出	
前年度繰越金	3,860,529	本輸送費	281,339
寄付金	1,783,435	通信費	148,297
物品販売	64,590	交通費	10,050
講演料	7,000	講演費	0
埼玉県国際交流協会	500,000	会議費	6,852
預金利子	1,326	印刷費	135,090
		事務費	54,601
		図書館車諸経費	664,392
		現地活動援助金	2,500,029
		現地視察費	0
		雑費	1,000
		返還金	272,529
		次年度繰越金	2,142,701
計	6,216,880	計	6,216,880